

## 国際公共財としての大学の「知」

埼玉大学  
国際開発教育研究センター  
丹呉 圭一  
09.2.17

### 「知」

- 「無知の知」  
...「どこまでを知れば知ったことになるのか、  
が分からない」
- 「知の創出」における「個」の位置  
...「出来事というのは、客観的世界の空間  
的・時間的全体の中から、有限な観察者に  
よって切り取られてくるもの」  
(M.ポンティ: 知覚の現象学)

### 開発の世界

- 「無知の知」  
・30年程前は、地球環境問題は開発の第1の  
関心事ではなかった。(気づいていなかっ  
た?)
- ・その後、インフラ・成長・貧困・BHN・ジェンダー・  
地域開発・人間安全保障・地球規模問題・...
- ・「実は、よく分かっていなかった」...古い課題の未解  
決の上に、新しい課題を上塗りしてきただけ?  
あるいは、課題の本質は同じで、唯それに気づいて  
いないだけか?
- ・我々は、何を分かっているのか? 何を分かっている  
のか?

### 知の創出・創造

- 開発シナリオ  
・先進国が作り、提示したもの  
・先進国の発展の歴史の「写し」「裏返し」  
...自国の発展史を「是」として、そこから特  
徴を(意識的に)選択し、理論化したもの
- ・欧米先進国・自由主義経済・市場の絶対  
性・規制撤廃・公的介入の排除・政策金融  
を嫌悪(「世銀の東アジアの奇跡」)
- 2つの姿勢  
・自然主義的  
・歴史主義的

### 自然主義的姿勢

- 自然主義的姿勢・物理学などの世界  
・物理的法則(自然法則)は、場所・時間の違  
いを超えて不変である。
- 開発シナリオについて言えば...  
・欧米先進国の歴史の根底に潜む「不変の規  
則性」を見つけ、それを後発の国々に適用  
することは可能であり、有益である。  
・WST consensus...

### 歴史主義的姿勢

- 社会科学の領域は、物理学のような自然法  
則を適用することは困難
- 社会行動の規則性は個々の歴史的・文化  
的條件に依存し、場所や時代が異なるので、  
社会行動においては、物理学のような「普  
遍の規則性」を認めることは不可能。
- 類似の状態は時代や場所を超えて持続す  
るものではない。

## 開発のあるべき姿？

- 我々はどこに正当性を置くことができるか？

## 現在の知の所在

- 大学
- 行政組織(政府官僚)
- シンクタンク・研究所
- 民間組織・企業
- 地方自治体
- NGO・各種団体
- 個人

## 政府

- 独占的な「情報」の集積地・・・明治維新以降の国家主義的政策の結果、「情報の集積」に基づく「知」の創出が行われた(ただし、整理・分析や創出の方向が的確であったか？)
- 最近の「小さな政府」志向・・・現実の世界・実業の世界との距離が拡大(疎遠)。現実の(構造)変化への意識が希薄＝「知」の創造主体としての限界？
- 官僚の利権化・・・優秀な頭脳の陳腐化＝活力の減退で、集積された「情報の断片」は「知」に昇華できず。

## その他(研究所・民間・NGO等)

- 政府機能の縮小＝地方自治体・NGOの活動範囲の拡大・・・「知の創造」を目的とする組織体ではないので、「情報」の集積を、「知」に昇華させるincentiveの不足
- ただし、今後は？

## 大学

- 学問領域(DISCIPLINE)の分化
  - ・古代ギリシャ
  - ・ベーコン(1633)「学問の尊厳と進歩」
    - ・・・歴史学・詩学・哲学
  - ・百科全書(1780)・・・歴史学・哲学(神学・自然科学・人間学—論理学・法学)・芸術
- 経済学・・・1776アダム・スミス「国富論」以降

## 大学の学問

- IDLE CURIOSITY(無欲の知識欲)
- 「知識欲集団」から「職業集団＝世俗的知識集団」
  - ・「知」の生産ピラミッド
  - ・学部単位で、学位・教授陣・カリキュラム作成権限＝「知の世界」に学部単位の境界線
- WW2以降の変化
  - ・政治経済活動の世界規模の拡大・・・国家間・文化間・価値間での形式的平等化＝「知」の世界での普遍主義的価値形成の競争
  - ・大学の形態の多様化と拡大を促し、エリート育成組織から公共組織への変化

## DISCIPLINEの変化(社会科学)

- 学部単位での権限
  - 学問領域の細分化 = 研究(対象)の細分化
    - 狭い領域での分析が明確化( : 全体的な変化や関連に関心が希薄化)
- 全体: 個... 学問の孤立化
  - 外界の変化に学部単位での対応が困難化
  - 学科・科目の組み合わせで対応
    - 「経済学」
      - ⇒ マクロ経済学・開発経済学・開発人類学・開発社会学
      - ⇒ アジア地域論・都市開発論
      - ⇒ 「都市と地域」「健康と開発」「開発と技術」
      - 方法論の混乱

- こうした状況下、現在の大学で「知の創造」は可能か？